

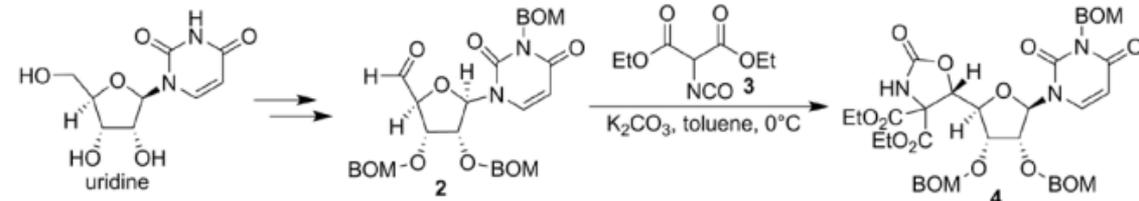
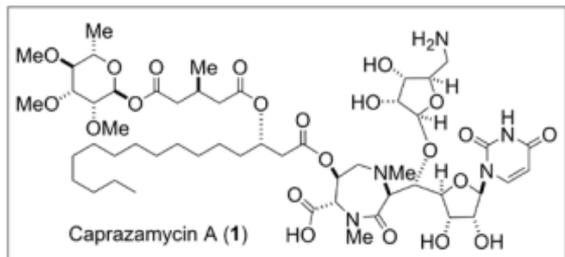
# 29pmM-010

カプラザマイシン類の合成研究

塚野 千尋<sup>1</sup>, ○安井 基博<sup>1</sup>, 中村 斐有<sup>1</sup>, 数見 直哉<sup>1</sup>, 竹本 佳司<sup>1</sup>(<sup>1</sup>京大院薬)

【背景・目的】Caprazamycin A (**1**) は微生物化学研究所の五十嵐らにより放線菌 *Streptomyces sp.* MK 730-62F2 から単離されたりポヌクレオシド系天然物である。その構造は七員環ジアゼパノン骨格を中心に、脂肪酸側鎖・アミノ糖・ウリジンをもっている。多剤耐性結核菌に対しても抗菌活性をもつことで注目されている。これまで caprazamycin 類の全合成は未だ報告されておらず、その部分構造である caprazol の合成<sup>a)</sup>が 1 例報告されているのみである。

【方法・結果】**1** の全合成を視野に入れて、ウリジンを有する  $\beta$ -ヒドロキシアミノ酸部の構築を検討した。BOM 保護されたウリジン由来のアルデヒド **2** とイソシアナート **3** のアルドール反応を試みたところ、オキサゾリジノン **4** を高いジアステレオ選択性で得ることに成功した。本発表ではこの鍵反応の詳細を中心に、その後の誘導化を合わせて報告する。



a) S. Hirano, S. Ichikawa, A. Matsuda, *Angew. Chem. Int. Ed.* **2005**, *44*, 1854-1856.